

小笠原諸島生態系保全アクションプラン改定WGの進め方について

1. アクションプラン改定WGについて

(1) 小笠原諸島生態系保全アクションプランとは

- ・小笠原諸島管理計画を補完するものとして2010年（平成22年）1月に策定された。
- ・生態系保全のための島毎の取組みについて、短期目標、管理機関の役割分担、内容、スケジュール等が明示されている。

(2) ワーキンググループの設置目的

- ・生態系保全アクションプランの短期目標の期間が平成24年度末までのため、これまでの成果や最新の科学的知見に基づき、次期アクションプランとして改定することを目的としてWGを設置した。
- ・WG設置期間は、平成24年度までの取組み結果（モニタリングデータ等）を参考とするため、データが出揃う25年度早期に改定検討を完了予定としている。

(3) ワーキンググループの概要

名 称	小笠原諸島生態系保全アクションプランの改訂に関するワーキンググループ
設置期間	・平成24年10月～平成25年度10月頃 ・平成24年度に1回（済）、25年度に2回程度（計3回程度開催）
管理機関	環境省、林野庁、東京都、小笠原村
メンバー （★：座長） （敬称略・五十音順）	阿部 宗広 一般財団法人 自然公園財団 専務理事（自然公園） 石井 信夫 東京女子大学 現代教養学部 教授（哺乳類） 荻部 治紀 神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員（昆虫） 川上 和人 森林総合研究所 鳥獣生態研究室 主任研究員（鳥類） ★清水 善和 駒澤大学 総合教育研究部 教授（植物） 田中 信行 森林総合研究所 北海道支所 地域研究監（植物） 千葉 聡 東北大学 東北アジア研究センター 教授（陸産貝類）

2. 兄島へのグリーンアノール侵入確認に伴う改定方針の変更

(1) これまでの改定方針

- ・整理の枠組みは第1期を踏襲する。島別に、次期5年間（平成25年度～29年度）の短期目標、管理機関の役割分担、取組みの内容やスケジュール等を定めた「第2期アクションプラン」を策定する。

(2) 兄島へのグリーンアノール侵入確認

- ・平成25年3月末、兄島において昆虫相等に壊滅的な被害を与え生態系に甚大な影響を及ぼすグリーンアノールの侵入が確認された。
- ・兄島は健全な乾性低木林の生態系が残存する世界自然遺産の核心地域の一つであり、世界自然遺産としての顕著で普遍的な価値を維持するために、グリーンアノール対策への迅速且つ集中的な取組みが喫緊の課題となっている。

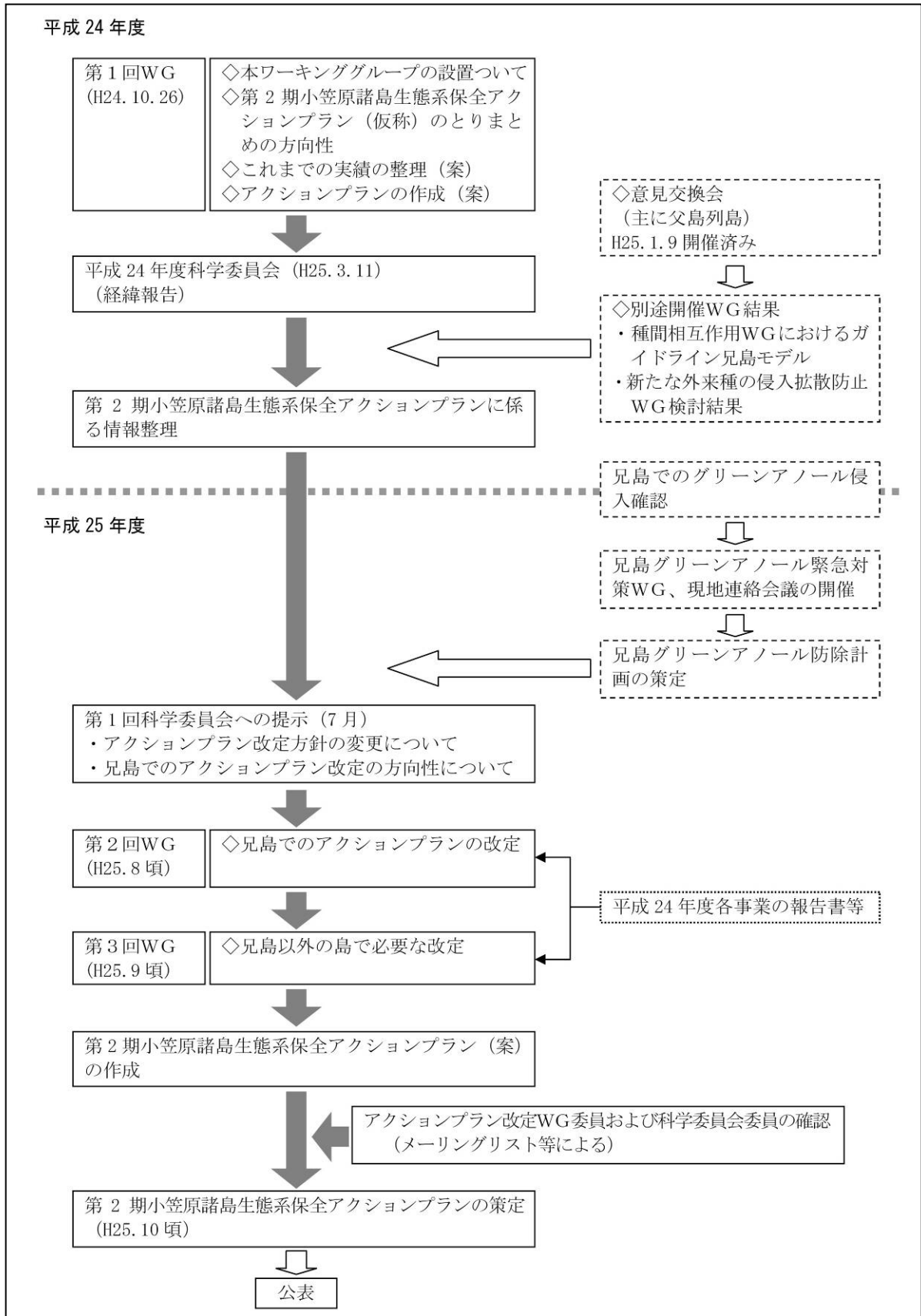
(3) アクションプラン改定の検討方針の変更（案）

- ・第2期アクションプランとしては、別途定められる「小笠原諸島兄島におけるグリーンアノール短期防除計画」との整合性のもと、兄島を対象として、8月を目途に改定する。目標設定期間は、緊急につき3年間（平成25年度～27年度）とする。
- ・兄島でのグリーンアノール対策に集中的に取り組むため、兄島以外の島については当面

の現実的な必要最小限の改定にとどめる。(ただし、弟島は兄島に近接しており、グリーンアノールの侵入リスクが他の属島より高いことを踏まえ、センサスを行う。)

・以上により、第2期アクションプランは10月を目途に策定する。

<アクションプラン改定スケジュール(案)>



アクションプラン【兄島】改定の方向性

(1) 緊急的な対策の重要性

- ・ 兄島は、小笠原諸島固有の乾性低木林の生態系が健全に残存する世界自然遺産の核心となる地域の一つである。
- ・ 平成 25 年 3 月末に兄島にて初めて確認されたグリーンアノールは、過去に侵入した父島及び母島の昆虫類相に激甚な被害を与えたことで知られ、在来の花粉媒介昆虫の喪失、ひいては虫媒花をもつ多くの固有植物の結実不良等、生態系に取り返しのつかない影響が発生している。
- ・ このため、グリーンアノールが兄島にて分布を拡大し、定着することは、世界自然遺産としての顕著で普遍的な価値を著しく損なうものである。
- ・ 現時点でのグリーンアノールの生息は、兄島の中でも南西部の一部に限られており（兄島約 800ha のうち生息確認地は約 28ha）、兄島全体の生態系への大きな影響は発現していない。しかし、短期間で全島に拡散する可能性を有しており、対策が遅延すれば甚大な影響が発生することが想定される。
- ・ よって、現時点で緊急且つ迅速にグリーンアノールを根絶することが極めて重要であり、これによって生態系への影響を最小限にとどめ、生態系機能の再生を図ることが費用対効果の点からも非常に効率的である。

(2) 基本方針

●目標期間

- ・ 平成 25 年度から 27 年度の 3 年間を目途とする。

●最優先にて対処すべき事項

①グリーンアノールの根絶に向けた主な取組み

- ・ 高密度生息確認地にて集中的な捕獲を行い、個体群を消滅させる。
- ・ 遮断柵を設置し、グリーンアノールの分布拡大を抑制する。
- ・ 兄島全域でのセンサスによる生息個体の検出と捕獲により、根絶を図る。
- ・ 効率的、効果的な防除・捕獲技術の開発等、調査研究を推進する。
- ・ トラップによる混獲や柵による影響の低減方法を開発する。
- ・ 父島から兄島への再侵入リスクを低減する方策について検討し、事業に着手する。
- ・ クマネズミの食性や生息個体数の動態を把握し、的確なコントロール方法の検討に着手する。

②固有昆虫類等の保全に関する主な取組み

- ・ 固有昆虫類等の生息状況を把握し、重要な生息環境は必要に応じて囲い込み柵や遮断柵を設置する等により保全する。
- ・ 固有昆虫類の域外保全に向けた取組みに着手する。

③乾性低木林の保全に関する主な取組み

- ・ 昆虫類の訪花状況、結実状況、実生発芽状況を把握し、植生の世代交代の実態を確認する。

●その他、過年度からの継続事項等

- ・ 上記の「最優先にて対処すべき事項」の成果を踏まえ、検討・実施を行う